

克典

プロメテウスは電気椅子の夢を見るか？

Does Prometheus dream of electric chair?

RazorEdge

2012-09-16, 17@新宿ゴールデン街劇場

プロメテウスは 電気椅子の夢を見るか？

製作

演出・脚本・音楽 克典

Copyright (C) 2012 RazorEdge. All Rights Reserved.

story

東日本大震災が起きなかった世界が舞台。但し、この世界では2011-03-11に、原因不明のステーション・ブラック・アウト（全交流電源喪失）によるレベル7の原発事故が起きている。

世界が一変して一年が経とうかという頃、通り魔事件が発生した。長引く不況に喘ぐ持たざる者の犯行でも病に触まれた者の犯行でもなかった。

つましく暮らしていた人々が、極刑か極刑回避かの不毛な裁きの当事者となってしまったとき、彼らの<善良さ>が試練に晒される。

characters

蓮實 まどか(はすみ まどか) 20代女性 新人女子アナ
被告 20代男性 被告人、新宿通り通り魔事件の犯人
松浦 40前後男性 弁護士

井ノ上 美桜 30前後女性 主婦、まだ幼児だった息子が犠牲となった
清原 雅 40前後女性 公務員、シングルマザー、息子が犠牲となった
黒澤 徹 50前後男性 准教授、死刑廃止運動に取り組んでいる、娘が犠牲となった

高垣 浩市 40前後男性 関東電力前社長の長男

検事 40前後男性
D 40前後男性 テレビ局のD

MC 50代男性 専業主婦を狙ったお昼の帯番組のMC

水科 香月 40前後女性 証人

/* unitFirst.briefing */

スタジオ・本番。

スポットライトに浮かびあがるまどか。

まどか「日曜日正午頃、都内で行われていた歩行者天国に乗用車が突入、降りてきた若い男が持参した刃物で居合わせた人々を次々と殺傷し二名が死亡、十名が重軽傷を負った事件の被害者で重体となっていた清原 剛さん（一九歳）が今朝入院先で亡くなり事件での死者は三名となりました。」

休日とあって歩行者天国は家族連れなどで賑わっていました。そんな閑静な風景が俄に地獄絵図と化しました。犯人が全く速度を落とさずに車で歩行者天国に突入したと複数の目撃者が証言しています。出会い頭に七名を「はね、その際に清原 剛さん（一九歳）が全身を強く打って意識不明の重体の状態が続いていました。今日になって死亡しました。」

車を降りた犯人は持参した刃物で次々と居合わせた人々を刺し、五名を殺傷しました。

刺された人のうち、井ノ上 颯太ちゃん（三歳）は心臓を一衝きされて即死、黒澤 彩さん（一二歳）も頸を斬りつけられて病院に搬送されましたが間もなく病院で死亡が確認されました。

警官が駆けつけたものの犯人は説得に応じず殺傷行為を続けようとしたため発砲、二発が命中、犯人は一時危篤に陥りましたが、搬入先の病院で意識を取り戻したそうです。

警視庁はこの拳銃の使用について適正に行われたとの見解を示しました。捜査本部は犯人の回復を待って、凶器の入手経路や動機等について調べる方針です」

独白。

まどか「レヴェル7の事故を起こした原発を稼働させていた関東電力社長が殺害されたニュースのインパクトが消え失せようとしていた頃に起きた通り魔事件はニュース・ヴァリユーのある事件だった。関東電

力社長を殺害した犯人は捕まっていないが、旬は過ぎてしまった。

マスメディアは挙って手をかえ品をかえ新宿で起きた通り魔事件について報道した。

警官に銃撃されて一時危篤状態となったものの一命をとりとめた容疑者の鈴原 剣介は私と同じ年の二三歳だ。犯行時は無職。最終学歴は大学中退。通り魔事件の大半がそうであるように、この事件も抑圧された人物によるアクテイングアウトではないかとおもわれたが、そうではなかった。

被告の父親は国家一種試験を突破したキャリアであり、被告本人が中退したという大学も私立大学では国内トップの偏差値を誇る大学だった。所謂山の手育ちの子女による通り魔は否応なしに人々の好奇の対象となった。報道各社が容疑者が家族と同居していた実家に押し掛け取材攻勢を掛けた。出掛ける家族につきまとい、これでもかと質問を浴びせた。質問……尋問といった方が的確だろう。

まるで容疑者と容疑者の家族には連帯責任があるともいいたげだった。

加熱する一方だった取材合戦・報道合戦は、つと終わりを告げた。

容疑者の父親が自殺したのだ。遺書はなかったが、事件性もなかった。

マスメディアが容疑者の父親を追い詰めたのだという世論がスポンサーに飛び火する前に各局は報道を控えた。

容疑者の父親の自殺後に明らかになったのだが、容疑者の父親と母親が事件直後に離婚していたことも判った。詳細は不明だが、世論はマスコミの取材・報道が苛烈を極めたことが一因だったと憶測した。父親の自殺と相俟って、加害者家族への取材や報道の在り方が批判され、ソーシャルメディアを用いてデモを行おうと提案する者さえ現れたが、ムラ社会であるこの國では容疑者と家族は同罪と考える者が少なくなかったため、成立しなかった。

容疑者は快方に向かい、やがて身柄は拘置所に移されて、取り調べが始まった。

現行犯だったということもあり、速やかに初公判の運びとなった。

志願したわけでもないが、巡りあわせで、私とその取材を担当することになった。

この事件の取材が私の生涯を左右することになるとはおもいもよらなかった。

/* unit:First.初公判 1/n */

// light.spot(検事, 弁護士)

裁判所。客席側に裁判長がいる体。

検事と弁護士が一礼、被告人が現れる。

検事「被告人は、三月一日正午頃、同日未明に盗んだHAMマーで、新宿通りに於いて実施されていた歩行者天国に明治通り方面から突っ込み、その時点で四名を殺傷。更に、被告人は車から降りると所持していた刃物で手当たり次第に居合わせた歩行者に斬りつけて、

駆けつけた警官の銃撃を受けるまでに、六名を殺傷した」

美桜「食事を済ませて、新宿御苑へ向かうところだった。子供だけに勝手にトコトコと歩いてゆくのではぐれそうになる度に声を掛けなければならなかった。

歩行者天国に差し掛かった。横断していると、ざわめきが起ったとおもいきや悲鳴がきこえて立ち止まった。RV車がヒトの群れにめり込んでいるのがみえた。立ち尽くしていると、ヒトの群れが蜘蛛の子のように放射状に拡散し私は逃げ惑う者に衝き飛ばされた。前後不覚に陥っているが早いか傍で火が点いたように哭きだす子供の声と悲鳴がきこえた。つと哭き声がやむとどさりという音がして、我が子が路面に放りだされた。穏やかな表情だった。後で聴いたのだが、心臓を一衝きされて失神してしまっていたそうだ。あの子に買い与えた

マックスシェイクのカップがアスファルトに転がっていた。

もし私たち母子が歩行者天国を渡るのが一分でも違っていたら？ 巻き込まれずに済んだ。あのとき、出掛けの電車が遅れなければ、寄り道しなければ、なんて詮もないことを考えてしまう。

逆縁に遭ってからというもの私にとって私を取り囲むこの世界は一変した。私とこの世界との関係がギクシャクしはじめた。あんなに親しかった世界なのに、いまでもとても余所余所しく感じられる。

何故、あの子が惨たらしい殺され方をされねばならなかったのか、理解に苦しむ。

あの子の産声がおもいだされてならない。無邪気な瞳や好奇心に充ちた様子や笑顔が繰り返し繰り返し思い浮かぶ。

あの子を殺めるくらいならせめて私を殺めてほしかった」

検事「三名の尊い人命が損なわれ、あまつさえ七名の重軽傷者が発生した。事件は、予め凶器も用意され、窃盗によって車輛を用意するなど、計画的に実行されたものでありその内容は残忍且つ悪質と断じざるをえない。我々は被告人に如何なる情状があつたとて到底社会として許容できる範囲を超えるものであり厳罰をつよく求めるものである。」

以上」

弁護側に発言の機会が与えられる。

弁護人「起訴事実には異議はありますか」

被告はかぶりを振り、弁護人は頷く。

弁護人「では、動機についてお訊きします」

被告「うぜえ景色をぶっ壊してやろうとおもった。」

マークットが垂れ流す尤もらしい記号を鵜呑みにして、紛いものの幸福を身に纏ってこれ見よがしにホコ天を闊歩している連

中の吠え面を拝みたかった」

検事「証人、お入りください」

美桜「井ノ上 颯太の母です」

気が逸っているらしく、声が震えている。

美桜「被告が不幸せなのは被告のせいであつて私たちの母子のせいなんかじゃない。関係ないでしょう。颯太を返して」

被告は薄笑いを浮かべているだけで他人事のように遣り過ごす。

美桜「いますぐ死刑にしてください。じゃなきゃ私に殺させてください」

検事「落ち着いてください」

美桜「落ち着いてなんていられません」

検事は美桜を見据える。美桜は虚を衝かれる。

検事「落ち着いて」

美桜は頷く。

美桜「あの子がいなくなつた世界で生きてゆける自信は正直なところありません。でも、

被告の惹き起こした禍に自殺なんかしたら私の負けです。

邪悪な気持ちに決して負けない」

暗転。証人が入れ替わる。

雅「清原 雅。国家公務員です。剛の母です」

検事「剛さんの生育歴について教えてください」

雅「彼は私が一九のときに産んだ子です。未婚のまま、私が養育してきました。」

幼年期から活発で高校入学前後まではテニスをやっていたのですが、いつからかバンドをはじめて学園祭に出演したりしていました。この春に大学に入ったばかりでした」

検事「女手ひとつでお育てになった息子さんの生命が被告の無差別殺戮によって奪われたわけですが被告に対してどのような感情をお持ちですか」

雅「訊くまでもないでしょう？」

検事「極刑を望むということでもよろしいでしょうか？」

雅「……さあ？ 被告に死んでもらったところで剛が生き返るわけじゃありませんからどうでもいいです」

誰もが雅の恬淡さに呆気にとられる。

雅「堪えていないわけがない。ただ、事實は覆らないのだ。幾ら哭こうが喚こうが死者が蘇ることはない。たぶん私は苦勞し過ぎたのだとおもう。それで辛いと感じる神経が凶太くなってしまうたのだろう。生家は決して裕福ではなかった。東京の国立大学に受かったのだが仕送りは学費だけだったのでアルバイトをしながら生計を立てた。初めはコンビニエンスストアとチェーン居酒屋の掛け持ちをしていたのだが躰が持たなくなりやがて実入りのよいキャバクラでアルバイトをするようになった。そのとき客としてきていた男との間にできたのがあの子だった。妊娠を告げると男はそれきり音信不通になった。真っ先に

墮ろすことを考えたが、あの男は別に私を強姦したわけではない。避妊はしてくれなかったが、私も年端もいかない処女だったわけではない。

私は責任を取ることにした。出産のために一年休学したが復学して国家公務員試験に受かった。国家公務員として働きながら、あの子を育ててきた。大変だったが、若くて体力も気力も充実していたので何とかなった。

あれから一八年経って私は不惑近くなつた。やつと肩の荷が降ろせると安堵しかけていた。

酒量が増えたが、まったく酔わなくなつた。心療内科に通院し薬を処方してもらつた。ようになった。

これまで仕事や職場について好きか嫌いかなんて考えてみたこともなかった。私はあの子を養育せねばならない一心で、自らの感情に構うことがなかった。

初めて、職場のことをつめたい・温もりがないと感じた。じぶんの仕事が既得権を温存し手数料を掠めとるだけのつまらない仕事だとおもった。

帰宅したとき、お帰りの一言も云わずにイヤホンをして読書に耽っていても、誰かがリビングにいてくれるのがどれだけ心強いことなのか、あの子が亡くなって、初めて実感した」

黒澤「シンポジウムに出席し、登壇して、パネルディスカッションに参加しているさなかにシンポジウムのスタッフから耳打ちされて、急遽、退場した。」

どこの病院に担ぎ込まれたのかは判らないが、とにかくハイヤーに乗り込んだ。警察から電話があった。署にきてくれという。娘の容態は？ と訊いてもはぐらかされたが、署に向かった。

署のロビーで泣き崩れる妻を見掛けた時点で、おおよそのところは悟った。警察官が何

事か話し掛けてたが詳細は覚えていない。娘の遺体は、すこしだけ頸の肉が抉れている。他は紙のように白いだけで生前と変わりがなかった」

検事「どのようなお子さんでしたか」
黒澤「引っ込み思案のきらいはありましたが心根の優しい子できつと素敵な人物に成長してくれるだろうと愉しみにしていました」

まどか「黒澤 徹は大学の准教授だ。駆け出しの頃、ある凶悪事件の公判にコミットし、当然下されると目されていた死刑判決を回避させたことよって一躍著名になった人物だ。事件は、二〇代の姉妹が同居していたマンションの一室に未成年だった犯人が押し入って姉妹を殺傷しレイプした挙げ句室に火を放って焼死させたというものだった。」

黒澤は彗星の如くマスメディアに登場し

犯人の生育歴が行政の盲点を衝くものだった点を誇張して世論を味方につけて減刑嘆願を行った。遺族を説得し、死刑判決を覆した。犯人は三〇になる前には出所すると云われている」

黒澤「私が死刑廃止運動に与し言葉巧みに世論を誘導してあの事件の極刑を回避したのは事実だ。しかし、あの頃、私は子供も妻も持たなかった。実を云うと、私は三〇まで、女性とおつきあいしたことがなかったのだ。いまの妻と運動を通じて知り合っつきあうようになったのが初めてだ。子供を持ってみて、親にとって、子供というものが紛れもなくたからものであることを実感した。私は自らの主張を正当なものと信じ極刑という野蛮な刑罰が下されるのを斥けたことで得意になった。だが、あの子の産声を聴いて、初めて被害者遺族の心情をリアルに感じた。情報ではなく、感情が伝わってきた。」

あまり識られていないようだが、学会で食べていくのは大変なのだ。博士号をとったからってポストに空きがあることなんて稀で殆どのPDがアルバイトなどで糊口を凌ぎながら研究に勤しんでいるのだ。

あの裁判で極刑を回避したことによって知名度を獲て私は講義を任せられてやがて学者として食べていける身分になった」

弁護人「証人は死刑廃止論者として著名なわけですが、本件についてもやはり極刑は回避すべきとお考えなのですよね？」

黒澤「……」

まどか「現行犯であり、三名が死亡している点から量刑は死刑相当であるとおもわれた。だが、容疑者の両親が離婚し父親が自殺したこと・被害者遺族に死刑廃止運動で著名な黒澤 聡が入っていることによって、僅かながら死刑回避の余地が生まれた。」

恐らくは死刑だろうが、あるいは無期懲役の目もある、といったところだ。

大それた犯行を実現した同い年の被告と粗暴犯は結びつかなかったが、彼の非情さや冷酷さは感じとった。

高校の教室でよく見掛けた手合いだった。誰とも打ち解けずに感情を殺しいつだって能面のような表情をしていて機会が巡ってくる。と舌鋒鋭い批判を披露する得体のしれないクラスメイト。被告と彼らがオーヴァラップした。

裁判そのものは被告も弁護人も起訴事実にも異議を唱えていないためすんなりと結審を迎えるものとおもわれた。

/* unitFirst.news */

スタジオ・本番。

まどか「たったいまニュースが入ってきました。過日、発生して捜査中でした関東電力社

長殺害事件ですが、捜査本部は、関東電力前社長 高垣 聡さん殺害の容疑で、新宿通り通り魔事件で現行犯逮捕された被告を再逮捕しました」

独白。

まどか「通り魔事件から遡ること僅か二週間前のやはり日曜日に関東電力社長が自宅の玄関で何者かによって刃物で滅多差しにされて殺害された。レヴェル7の事故を起こした原子力発電所を保有し運用していた関東電力のトップの殺害であり、金品が盗まれた形跡もなかったことから、他意がある事件とまことしやかにささやかれた。

原発を稼働させて荒稼ぎしておきながら被害者に対しても地域に対してもろくに補償もしていない企業のトップに対する襲撃は畢竟様々な角度から反響があった。

右も左も容疑者を奉り、民衆のあいだでは義賊の称号を与える向きもあった。

活字もテレビもネットも憶測で賑わった。

当面は関東電力社長殺人事件が持ちきりになるものとおもわれた。

その余韻さめやらぬうちに、通り魔事件が起きた。

そして、通り魔が関東電力社長殺人の容疑者に浮上した。

義賊が通り魔事件を起こした。梯子を外されて誰もが俄に歯切れが悪くなる様は気の毒でさえあった。

スタジオ・本番。

まどか「繰り返し返します。新宿通り通り魔事件の被告が関東電力前社長殺害事件の容疑者として再逮捕されました」

O Aが済み、Dが寄ってくる。

D「面白くなってきたな。通り魔が高垣殺しの犯人だったなんてな。こりや原発事故以来の美味しいネタだ。局長賞も狙えるぜ？」

まどか「不謹慎じゃないですか」

D「『面白くなきゃテレビじゃない』。あれ？ 違ったっけ？ ま、いいや。報道はマ

グロ漁みたいなものだ。元手ナシでかい事件が起きてくれれば数字稼げてスポンサーも制作費弾んでくれておれは西麻布に呑みにいく回数が増えて蓮實ちゃんのバカンスも選択肢が充実する。ボロいもんだ」

まどか「因果なものですな」

D「青臭いこと云ってたヤツからこの業界から消えていった。報道だって商売なんだからさ。あ、そうだ、蓮實ちゃん、もつと露出してよお肌をさ。それで数字稼げちゃうんだからさ。スカートも短くして際どいの着てきてよ際どいの」

/* unitFirst.theCaseOfNukes */

闇のなかにまどかが浮かびあがる。

まどか「原因不明のステーションブラックアウトにより核燃料が冷却されずにメルトダウンに次いでメルトスルーが発生、原子力発電所の半径二〇キロメートル圏内が災

害対策基本法に於ける警戒区域に設定され立ち入りが禁じられ民間人は強制退去させられた。また半径二〇キロメートルから半径三〇キロメートル圏内についても緊急時避難準備区域に指定された。

一一万三千人が避難を余儀なくされた。一挙にこれだけの人々が住居と職をとりあげられることの影響の全貌は俄には想像さえできない。一一万三千人といえど、東京ドームと福岡ドームを埋め尽くす人数だ。

この原発事故は、チェルノブイリ原発事故以来のレヴェルセヴンに認定された。事故からおよそ一ヶ月のあいだに八五万テラベクレルの放射性物質が放出されたといわれている。一テラベクレルが一兆ベクレル、その八五万倍だ。単純にシーベルトに換算できないとはいえず、気の遠くなる数値だ。7Svの放射線を全身に浴びると致死率はほぼ一〇〇パーセント。テラやミリをつける紛らわしいな。

人体は年間およそ0.0024Svの自然放射線に晒

されているといふ0.0024Sv×100として0.24Svだ。

低線量被曝の影響が懸念されるのは成長期であり、事故当時に被曝した未成年の健康被害は計り知れない。

当該事故を起こした原発は関東電力が保有するものだ。事故直後の対応を巡って関東電力は世論の集中砲火を浴びた。また、その後の避難住民に対する補償でも不誠実だと非難された。関東電力代表取締役である高垣氏が的に掛けられたのは云うまでもない。

リカヴァー不可能な事態により、国土の一部が不毛の地と化し、未だに放射性物質は垂れ流しにされ食品の汚染も散見される。事故から一年と経たぬうちに政府は事故が終息したとの公式見解を発表したが、国民のあいだから失笑とも溜め息ともつかぬ反応が認められただけだった。

安全神話を流布してエクメーネに原子力

を用いた発電所を建て稼働させていた。事故が起きたらどう解決するかという問題を万全を期すことによつて事故の可能性を限りなく〇に近づけることによつて上書きしてしまおうとした。そして、数十年の長きに亘つて問題は蓋をされたままだった。

全交流電源喪失状態に陥つた原因はテロとも交換したての機器の初期不良とも囁かれているが真相は不明だ。テロだったとしても、事故が起きたらどう対処するのかという問題を棚上げしてきたのがそもその元凶であることに変わりはない。

高垣氏は事故直後から矢面に立たされ続けているが、高垣氏が代表取締役選ばれたのは事故の僅か半年前だ。彼が事故を起こした原子力発電所の建設を指示したわけではない。然るに、避難所で難詰されて土下座させられる模様が全国ネットで中継され会見で当事者でもない記者に罵倒され、心身ともに極限状態に追い詰められたことだろう。

放射性物質が垂れ流され続けているにも拘わらず半年もすると喉元を過ぎてしまつた」

/* mitFirst: 起訴状朗読再び *

法廷。

検事と弁護人が一礼、被告人が現れる。検事「被告人は、二月二六日午後、当時の関東電力社長 高垣 聡氏の邸宅を訪問、応対した被害者を隠し持っていた刃物で上半身数カ所を刺した。被害者は外傷性ショックにより即死。被告人は逃走を遂げ、次なる犯行に備えていたものと推察される。

そして、三月一日正午頃、同日未明に盗んだハンマーで、新宿通りに於いて実施されていた歩行者天国に明治通り方面から突っ込み、その時点で四名を殺傷。更に、被告人は車から降りると所持していた刃物で手当たり次第に居合わせた歩行者に斬り

つけて、駆けつけた警官の銃撃を受けるまでに、六名を殺傷した」

弁護人「起訴事実には異議はありませんか」

被告はかぶりを振り、弁護人は頷く。

弁護人「先ず、関東電力社長 高垣 聡氏殺害の件について詳しく訊かせてください。初めから高垣氏を殺害する気でしたか？」

被告「……重傷は負わせるつもりだったが、殺すとは決めていなかった」

弁護人「高垣さんが死んでも構わないとはおもっていたということですか？」

被告はぎこちなく頷く。

弁護人「第一の犯行の直後、自首するつもりにはならなかったのですか？」

被告「遅かれ早かれ警察の方から捕まえにくるだろうと考えて、それなら捕まるまで遊ぶことにした」

弁護人「歩行者天国に車で突入した件について伺います。犯行に使用した車輛はハンマーでしたが敢えてハンマーを選んだのですか？ そ

れともたまたまハンマーだったのですか？」

被告「車を盗もうと物色していて見掛けたのがたまたまハンマーだった」

弁護人「滅多に見掛けない車ですものね。

両事件についてそれぞれ動機についてお訊きします。

何故、一面識もない高垣氏を襲ったのですか？ 昨年の上原発事故と関係がありますか？」

被告「著名だったから狙った、それだけだ」

弁護人「歩行者天国に車で突入した件の動機は何ですか？」

被告「……こうするしかなかった」

弁護人「どういうことですか？ 応えたくないということですか？」

まどかにスポット。

まどか「被告が口を閉ざし弁護人が困惑したところで裁判長より閉廷が告げられた」

/** unitFirst.final */

暗転・弁護人にスポット・

弁護人「高垣氏殺害と通り魔の間にきつと関係があるはずだ・

証拠をさがさなければならぬ・だが、犯行計画などは押収されていない・糸口さえ掴めない・ということはやはり関係はないのか・諦めかけていた頃、ネットに於いて、あるブログのエントリが話題になっていた・

高垣氏殺害事件以前に投稿されたもので、原子力災害の責任の所在が安全神話を流布してきた関東電力や原子力発電を認可した行政にあるとして舌鋒鋭く批判するエントリだった・的を射たもので、投稿者がそれなりの論客なのは間違いなかった・

幸いブログの運営会社の顧問弁護士と顔見知りだったので、発信元は特定できた・渋谷のネカフェだった」

舞台の手にまどか・

生放送ワイドショーの音声・

スタジオ「遺産取り崩しながら赤字経営を続けているってそりゃその人が経営者の器じゃないってことじゃない・泥舟には乗っちゃダメですよ・ねえ・それじゃよく考えて結論だそうね・それじゃね・

あ、そうそう、今日はですね、あの関東電力前社長の公判が間もなく開かれるんですね・

現場と中継が繋がっています」

まどか「こちら東京地裁前です・関東電力前社長 高垣 聡さん殺害および新宿歩行者天国通り魔事件で殺人などの容疑で起訴された鈴原 剣介被告の公判が間もなく開始されます」

スタジオ「ふたつの事件の間にはなにか関係があるの？」

まどか「いまのところ、何らかの関係があるとの証拠がなく、被告も証言していません」

スタジオ「最初の事件だけにしときやよかつたのにな」

まどか「え？」

スタジオ「おっと危ない危ない、引き続き取材を続けてください」

法廷

弁護人「被告人、あなたは高垣氏を殺害する一週間前に渋谷のネットカフェを利用しましたか？」

被告「覚えていない」

弁護人「あなたは飛び込み客でインターネットを使うのに免許証を提示しています。店側が免許証のコピーを保管していました」

被告「……」

弁護人「そして、入店したあなたは使い捨てのメールアドレスでブログを開設してあのエントリーを書いた。エントリーの投稿時間は、あなたがネットカフェに滞在していた時間帯です。

朗読します。

まことしやかな安全神話によって原子力発電を推進し暴利を貪りそのカネを各界にバラまいて安全神話を補強することによって原発というビジネスモデルを盤石にしてきた関東電力や原子力発電を許認可した関係省庁や政府が悪くないとしたら我々は一体何を悪と称ぶのだ。

政府は早々と収束を宣言した。きっとカネのためなら國の誇りさえ売り渡そうとする例の圧力団体にでも配慮したのだろう。だが、半壊した原子力発電施設が放射性物質を垂れ流し続けていて、避難区域の復旧も避難した住民の処遇も決まっていない。事故は業務上過失か。事故が発生する確率は天文学的な値だと嘯いていたが、今回の事故により、事故の発生確率が天文学的な値でないことが浮き彫りになった。

終わっていない。

寧ろこれからだ。あれから一年と経っていないのだ。原子力発電を継続するか否か

については別の機会に論ずるとして、責任は
追及すべきだ。

云うまでもないことだが、法的根拠などハ
ウスルールに過ぎない。

私は看過できない」

弁護人は被告に向き直る。

弁護人「これはあなたが書いたものです
ね？」

被告は微かに頷く。

弁護人「改めてお訊ねします。

原発事故についてどう考えていますか」

口籠もり、一頻りして、被告は口をひらく。

被告「……致命的なリスクを安全神話によつ
て覆い隠し儲けてきた電力会社は責任をとる
べきだ。関東電力は換金できるものはすべて
換金し補償に充てるべきだ。社員は一生を掛
けて償うべきだ。絶対に安全だと国民を騙し
て国土や人命を担保に入れて稼いできて実際
に事故を起こしたのだから」

弁護士「高垣氏を殺害したのはそういった意

図？」

被告「原発事故によって国土の一部を不毛
の地に成り下がらせ多くの人々を迷わせた
企業のトップでありながら臆面もなく役員
報酬を受けとり相変わらず豪邸に棲みのう
のうと暮らしている猛々しき盗っ人に制裁
をくわえるのはそんなに悪いことだとはお
もわない」

弁護人「高垣 聡を襲ったのが二月二六日、
通り魔事件が三月一日、いずれも日本人
には馴染み深い日付ですが、偶然です
か？」

被告「一九三六年二月二六日が雪だったこ
とくらいは識っている」

弁護人「偶然ではないということですか
ね？」

被告「事故からたった一年しか経っておら
ず未だに多くの人々が避難を余儀なくされ、
少なからぬ人命が損なわれることが確定し
ている。」

それにも拘わらず、三月一日であることを棚上げして日曜日だからってぬけぬけと歩行者天国にたむろってるような連中を皆殺しにすべきだとおもった」

弁護人「一連の犯行は、國に対して警鐘を鳴らす意図があったのですね？ 事故とそれによって惹き起こされた議論を風化させてはならないという？」

被告「核弾頭なんて搭載していなくてもバンカーバスター弾でも打ち込まれりや甚大な被害が火をみるよりも明らかな原発が未だに運用されているという事実に対して一石を投ずるには、こうするしかなかった」

/* unitSecond.briefing */

独白・

まどか「弁護人によって引きだされた被告の動機に反響があったのは云うまでもない。右も左も『手段が法に抵触している』というみ

たまんまの指摘を枕詞にしていたが、支持しているのはみえみえだった。

年末になると『忠臣蔵』が恒例のお国柄とあって、やはり議論は抽象化されずに情が持ち込まれて台無しになった。

オウム事件のときと同様に、現実と空想の区別がつかない小説家や文芸評論家や劇作家は被告に浪漫を投影した自説を滔々と述べてネットで叩かれた。

脱原発デモで被告の肖像を掲げる参加者が見受けられた。被告の供述に触発されてデモに出掛けた参加者も少なくなかった。死人に口なしと、関東電力の次期社長は『高垣前社長の遺志を継いで』これからも原子力発電事業を推進してゆきたいと就任の辞として述べた。

右も、名もなき一青年が國を憂って思い詰めた行動であるとして、『いまこそ蹶起のとき』と街宣で涙ながらに語った運動家もあつた。

やがて、極刑回避を嘆願する声が始めた。脱原発デモの際、署名活動があったという情報もあった」

照明が変わり、まどか。

まどか「率直に云うと、私はこの事件をどう捉えるべきか解らないんです。どうやら被告には大義があったらしい。それで破滅覚悟で二つの事件を起こした。それで四人が亡くなってその四人それぞれに連なっていた方々が断腸の思いをなさっている。大義に亡くなった方々の生命を奪う権利が果たしてあったのか。ヒトの生命を奪う大義がそもそも大義たりえるのか」

D「(八名 信夫のマネ) まずい」

まどかには通じない。

D「平成生まれにやこのネタ通じねえか。青臭い青臭い青汁くらい青臭いよ蓮實ちゃんよ、この世のすべては白いとも黒いとも云い切れねえグレーゾーンよグレーゾーン」

おれたちの仕事は数字をとることだよ。報

道だって、視聴者のニーズに応えなきゃ、スポンサーいなくなつて終わっちゃうんだよ？

いまどき無料で観れる地上波なんて低所得者層くらいしか観てないんだから、解り易く情に訴えるのが手っ取り早いし間違いないんだよ。

蓮實ちゃんなんて、ついこないだまで、キャンパスで男誑かしちやアツシーメツシーミツグ引き連れてたクチじゃない？それが運良く入社試験に受かつて報道に配属された途端、お澄まし顔でニュースなんて読んでるんだもんね。世間は甘いし大衆なんてバカだからもう蓮實ちゃんのことも一端のジャーナリストだつてみなしちやつてるって。

あれ、蓮實ちゃん、何そのカツコ？ 時代はチラリズム・ギリギリガールズだよ？数字と露出は函数なんだから、谷間強調しなきゃ？ 寄せて上げなきゃ？

（『Back to the future』のビフよろしくDはまどかの頭を叩き）

Hello, hello? Anybody home?

まるでジャーナリストみたいじゃねえか・たまにはいいか・グラビアアイドルが服着てるとそそるしな」

/* unitSecond.独演会 */

法廷・

検事「再度、被告人の起こした事件それぞれの動機についてお訊きします」

被告「高垣には事故の責任を取らせたってことだ」

検事「では通り魔は？」

被告「ぶっちゃけ通り魔は迷った。被害者は無作為抽出方式になっちゃまうからな。だが、風化させないためにはインパクトがなけりやあな」

検事「一般論としてはそうかもしれませんが

被告が考えなければならぬことじゃありませんよね？」

被告「おい、どういう意味だ？ モノを考えるのは官僚や学者だけでいいってことか？ 一般人が物申すのは僭越だとても云いたげだな？」

検事「……」

通り魔事件について、原発事故を風化させないことを意図したとのことですが、風化してしまうのも国民も総意であり致し方のないことだとは考えませんでしたか？」

被告「事故について、過ぎたこと・取り返しつかないことと割り切るのは好きにしたらいい。高垣を殺したところで何にもならない？ でも、だからって、何にもならなければお咎めなしってわけにはいかな

い」

検事「被告人には何の権限があるのですか？」

被告「権限なんかねえよ。だが、現行法が

高垣を保護するからって、杜撰な原発管理を行っていて甚大な被害をもたらしたことに落とし前は誰かがつけさせるべきだと考えた。そのうち誰かがやるだろうとおもっているうちに悪戯に時間が過ぎてしまった。誰かがやらなければならぬことだった。たまたまそれが俺だったってことさ」

検事「誰にも支持されないとは考えませんでしたか？」

被告「お前は支持されるかされないかに左右されるのか？ 倫理のような定性的な価値は原理的に主観的・相対的であることを免れない。俺は主体的に判断して行動した。高垣は殺されなければならぬし、庶民は事故のことを覚えていなければならぬ。それも生々しくな」

検事「そもそも原子力発電所の事故原因は、東北エリアの送電所に対する同時多発テロです。未だにそのテロを企てた勢力の素性や目的は明らかになっていませんが、東北エリア

送電所同時多発テロについてはどう考えていますか？」

被告「勢力の素性も目的も解らないんじゃない。勢力については論評のしようがないな。だけれどな、テロが悪いとはおもわない。テロか否かはご都合主義だからな」

検事「ご都合主義？」

被告「反体制派の実力行使は何故悪い？」

検事「違法だ」

被告「国内法は絶対じゃない。尤も国際法だってそうだけどな。法つてのは、体制が生成したものであって体制にとって都合よくできている。機動隊や軍が暴動を鎮圧するという名目で行う実力行使と反体制派の実力行使の違いは法に則っているかという危うい一点に過ぎない」

検事「つまり被告はテロを肯定すると？」

被告「肯定も否定もしない。ただ、善いか悪いかと問われたら絶対的に悪いとはおもわないと云っている」

検事「被告は、原発事故を承けて義憤に駆られたわけですよ？ それで、一連の犯行を実行に移した。」

原発事故の原因は、東北エリア送電所同時多発テロによるステーション・ブラック・アウトです。

悪いのは関東電力という一プライヴェイト・カンパニーではなくてテロリストだとは考えなかったのですか？」

被告「その理屈が成り立つんなら、夜中にひとんちの軒先にガソリン撒いててもいいってことになるな。で、通りすがりの酔っぱらいが火が点いたまま吸い殻棄てて引火して家が全焼したらその酔っぱらいのせいかな？」

検事「それとこれとは」

被告「違わねえよ。しかもあいつらは『このガソリンは引火性じゃありません。打ち水です』って云ってるようなものじゃねえか。」

いいか。

事故そのものよりも、発電に原子力を用い

ていることが問題なんだ。それも、安全管
理は万全だってプロパガンダを欠かさずにな。
事故が起きたらどうするという問題を
事故は決して起きないと強弁して消去して
いたのだ。」

事故そのものは防ぎようがないと今回の
件で判つただろう？ 悪意を持つ者が悪
い？ じゃ、地上から犯罪がなくなるの
か？ 悪意を持つ者を根絶やしにできるの
か？ それこそ、いつだって社会主義が
ファシズムと結びついてきたメカニズム
じゃねえか」

検事「原発を停めた場合の代替電力は？」

被告「そんなの識るか。それはあいつらの
仕事だろう？ 反原発の立場をとるなら代
替案を示すべし、なんてのはレトリックだ。
原子力発電に賛成か反対かという問題と、
ある立場をとるための条件は何かという問
題は別々に存在している」

検事「電力が不足したって構わないんです

か？」

被告「需要に応えるために原子力発電？　どこの誰が原子力を用いてまで需要に応えろって要求したんだ？　需給のバランスをとるために値段をあげりゃいいじゃねえか。ガソリンがコーラよりも安いのがそもそも可笑しいんだよ。需要があるから、なんて言い種はプッシュヤーとポン引きの詭弁だ。買う奴がいるから悪いっていうね。順序が逆だ。売る奴がいて初めて買えるんじゃないか？」

検事「日本国が衰退しても構わないのですか？」

被告「原子力発電に頼ってまで維持しなければならぬくらい現状が素晴らしいと感じたことはない。キヨシローじゃねえけどよ、狭い日本にこんなに人口いらねえんじゃないの？　冷戦のお陰で一頃は『ジャパン・アズ・ナンバーワン』なんて舞いあがっていたけど、実力はこんなものじゃないのか。事故直後、どこかの人材派遣会社が原発作

業員を募集していた。『日当一千万円で割り切れる方募集』だとき、その程度だって、きつと」

検事「高垣氏が受け取った賞与の全額を寄付したのは識っていましたか？」

被告「しらねえよ。例え事実だとしても生ぬるいね。」

それはそうと、事故のとき、原発周辺にいたガキの何割かはもうダメだろう」

検事「子供たちを殺害した分際ですそれを云いますか？」

被告「気の毒したよ、あの子たちには、けどよ、一殺多生って奴だ。平和ボケして五、四基もの原発が遍く存在していて民間へりでも特攻仕掛けられたらもうお仕舞いだつてのによ。これだけ甚大な被害がでていながら原発堅持を主張するなんてどれだけ欲ボケしているんだ。人命は地球より重いんじゃないのか？」

検事「つまりあなたは日本人に覚醒を促そ

うとしたと？」

被告「そうだ」

検事「あなたは何様のつもりですか？」

被告「お前こそ何様のつもりなんだ？ 原子力発電に依存してまで経済大国の座を守らなくてもいい・いいか、既成事実を覆そうとしたらあんなデモじゃダメなんだ。警官隊に囲まれて警察車輛に先導されてデモ？ 嗤わせるなよ？」

既成事実を覆そうとおもったら内戦さえ辞さないくらいの覚悟がなければ実現しないんだ。ポソ紛争の動画って観たことがあるか？」

検事はかぶりを振る。

被告「ネットに落ちているから観てみなよ？ 刀で頭かち割られて脳みそ丸ごと地べたに落ちてハエが集ってたり、生首掲げて歓声あげたりしてよ。戦国時代ってあんなもんだっただらうな。」

為政者の都合で改訂が重ねられてきた法に

則っついては是とされて久しい原子力発電を非に転ずることなんてできない。血を流す覚悟がなければこの状況を覆すことはできない」

検事「やってみなければ解らないでしよう？」

被告「何年掛かるとおもってるんだ？ いまこうしている間もあの事故った原発から放射性物質は垂れ流しにされ市民が被曝し続けているんだ。原発推進派の時間稼ぎの議論に乗っているあいだに次の事故が起きないとどうして云いきれるんだ？ そもそもあの発電所だって事故は起きえないって前提じゃなかったのか？」

検事「被告人は目的のためなら法を無視してもいいという考えですね？」

弁護人「異議あり。検事は被告人の思想を捏造しようとしています」

検事「……」

闇のなか、三々五々、佇む者たち。順次、スポットが当たる。

美桜「颯太を喪っただけでも致命的なダメージを被ったが、それだけで済まなかった。

近所を歩くと、好奇の耳目が注がれた。

人々は、私を見掛けては、腫れ物を敬遠して、これ見よがしにひそひそ話をはじめ。

テレビカメラの前で感情をさらけだしたばかりに、鈴原を英雄視する人々や人の不幸は蜜の味と考える人々の標的にされた。プライヴァシーを侵害され、流言飛語が氾濫した。私が賠償金目当てに颯太を鈴原に差し出したという説もあった。

殊にネットの書き込みは私をうちのめした。『ブックスクス 母親だったら通り魔事件くらい想定してなきや』『子供が殺された？じゃ、またつくればいいじゃない？』『口減らしして貰って感謝しろよ』

手紙も届いた。殆どは無記名でネットの書き込みと同等の出鱈目なものだったが、一通だけ署名のあるものが混じっていた。

達筆で書かれた、政治結社主宰を名乗る人物からのものだった。鈴原の大義に巻き添えになったご子息は殉國者なのだ。ご子息の死を無駄にしないためにもどうか自重されたいという主旨だった。

何故、原子力発電事故の責を私の子供の生命で購わなければならぬのだ。私も私の家族も関東電力の社員でもなければ利害関係もない。原発事故の責任は関東電力の方々が償うべきでしょう。

黒澤さんの周辺が私の懐柔工作をはじめているが、私は寛大な措置を求めることに与しない。颯太の無念は私が晴らさなければならぬ。

被告を極刑にするには、私たち遺族が強い意志を示さなければならぬ。それなのに、黒澤さんはまだしも清原さんもまるで

他人事のようだ。我が子を殺されたというのに……あの人たち躰に血が通ってないんじゃない？」

雅「颯太くんのおかあさんに届いた達筆の手紙は私のところにも届いた。」

当事者でもないのに手紙まで送りつけてくる僭越さには辟易したが、一理はある。國に喝を入れるには一殺多生という手段を選ばざるをえないことがある、という一文には肯ける。一般論としては、

被告人が死刑になろうがなるまいが、どうでもいい。私は肩の荷が下りて拍子抜けしてしまった。これまで剛を育てあげることには集中していたのだが、その役目は終わった。生活は待ってくれない。同級生がお参りにきてくれるのはありがたいが、率直に云うと、あの子と同じ年頃の子たちの姿は暫く見たくない。

私たちが親子に同情する体でお涙頂戴ドラマ

の代わりにひとの悲劇を出汁にする人々もいれば、機を見て敏とばかりに云い寄ってきた後輩までいた。

ちいさな親切ありがた迷惑。

原発事故後、ドロップアウトした知人がチャリティーと銘打ってライブを開いていた。

音楽活動で煙草銭程度しか稼げていないのにミュージシャンを自称し親から相続した遺産で生活している人物だ。チャリティーのために赤字公演を打つ？ あさましいとおもった。チャリティーの意志があるのなら、赤字のライブなんて中止にして、経費全額を寄付すべきだとおもった。

剛の父親は葬儀には喚ばなかった。生物学上の親には間違いないが、人の親たる資格は私が認めない」

黒澤「死刑は野蛮な制度であり非人道的です。人類史とは、ヒトが自らの野蛮さ即ち

本能を直視してそれを制しようとする過程とも云えます。犯罪を抑止もしなければ冤罪時は名誉回復の機会が損なわれてしまう。

講演でも講義でも数え切れなくらいそう主張してきた。

私の主宰する団体のメンバーは、この裁判で死刑を回避することによって生成される物語を欲している。『主宰は自らの子供を殺められたにも拘わらずに犯人の死刑を回避させた』というエピソードは伝家の宝刀として団体を盤石にするものとなるだろう。

団体の役員に名を連ねていた妻は、署名した離婚届を置いて、でていった。

私もできることならそうしたい。

家族が、いなくなった。

ふと娘が殺されたことが夜の夢だったようにおもえるときがあるが、遺影の娘と眼があつて、現実だとおもいしらされる。

私は死刑廃止運動団体の長である以前に、あの子の父親だ。娘の生命を奪い、私から娘を

奪い、妻を奪ったあの男に対してどんな刑を望むか？

あの頃、じぶんにも娘がいたら、死刑廃止論をぶつて自らを売り込んだらどうか？

娘を愛していたことを証明するには恥も外聞もかなぐり捨てて極刑を望まなければならぬのではないか？

/* unitSecond.meeting */

弁護人と被告が対座。

弁護人「変わったことは？」

被告「別に」

弁護人「体調は？」

被告「悪くない」

弁護人は笑顔で相槌を打って、

弁護人「世間は君に味方しはじめた。君のとつた行動の奥底に潜む意味をどうやら酌みとつてくれたみたいだ。」

君の減刑を嘆願する署名もはじまった。

懲役つていたって拷問に掛けられるわけ

じゃないからな。読書はし放題だし、職業訓練だって受けられる。四〇までには仮釈放される。四〇の若さなら、やり直しには充分だ。出所すれば、論壇が君を放っておかない。手記はベストセラー間違いないだし、ひよっとしたら映画化されるかもわからない。講演の依頼なんかもあるだろうし、喰うには困らないだろう」

被告は失笑。

弁護人「嗤うのは判る。でもさ、君は変えたいのだろう？ だったら生き延びなきゃ。山口一矢は美しいが、既成事実を覆す闘争は何十年も掛かるんだ。君がでてくる前に原発問題が解決していることはない。そこどころか君が鍵を握るのかもしれない。ひよっとしたら君を担ぐ政党だってあるかもしれない。だから、本という本を片っ端から読んで雌伏してくれ」

被告「な」

弁護士「うん？」

被告「おれは死を以て償うよ。四人もの人間を殺害したんだ。だから、助かるべきじゃない」

弁護士「いいや」

訝る被告を見返す弁護士。

弁護人「お前には責任がある。原発事故を風化させないためにとった行動によって四つの尊い生命が喪われたことは厳然たる事実だ。だが、お前はそれ以上の人々を救おうとしているのだ。十字架を背負いながらも脱原発に生涯を捧げることが償いなんだ」

被告は絶句する。

弁護人「おれはお前を死なせたくない。いや、死なせない。お前のような志士こそ生きていくべきなんだ。おれたちの世代の旗手はとつくの昔に二六で自ら生命を断ってしまった。それじゃダメなんだ。生きていくっていうことは格好悪いかもしれない」

それでもお前には生き延びなければならぬ
い」

時間がきて、弁護士が立ち去る。遺された
被告の凄絶な表情。

/* unitSecond.semiFinal */

独白。

まどか「ジェノサイドが別と殺人事件と結び
ついただけで、通り魔が英雄になることに妙
な感慨を覚えた。

もし、被告が高垣氏を殺害せずに通り魔事
件だけを起こしていたとしたらこうはならな
かっただろう。きっと、被告が原発事故を風
化させないためだという動機を述べたところ
で誰も情状としては認めなかったのではない
か。

高垣氏が罰せられたところで、原発事故に
よる甚大な被害は回復しない。彼が原発をは
じめたわけではないのだ。株主総会の承認を

経て彼が代表取締役就任したのは原発事
故の一年弱前だ。

それでも、高垣氏殺害については、致し
方ないとはおもう。勿論、公言はできない
が、被告が手を下さなくともきっと遅かれ
早かれ功を成したい団体あるいは個人に
よって暗殺されただろう。

原子力発電所が、例えテロによるものだ
としても、暴走し、未曾有の被害が生じて
いるのだ。住宅街で猛獣を飼育していたよ
うなものだ。それも悪意を懐いた第三者が
解き放つことのできる程度の設備で。

通り魔事件はどうか。三月一日を風化
させないことが狙いだと被告は証言した。
被告の指摘は部分的に正しい。私も、事故
が長期化するうちに慣れが生じてしまった。
深刻な事態が進行しているかもしれないと
いうのに、日々の暮らしに追われるうちに、
被曝に対する恐怖心が薄らいでしまった。
原子力発電所こそ半壊し警戒区域はゴー

ストタウンと化してしまったものの、事故前と事故後で景観は大して変わらない。こうしているいまだって、具体的には想像し難いくらいの半減期の放射性物質が垂れ流しにされ続けているのだ。

しかし大義があったとて無辜の市民への殺傷を弁護する情状となりうるのだろうか。被害者の無念や被害者がく意味ある他者>だった人々の *grief* はどうなるのか。私はいまのところじぶんが子供を産むって想像がつかないが私が殺されたら父や母や友人が悲嘆に暮れるだろうとは想像できる。

永山基準を充たしている。

だが、世論は極刑回避に触れた。

恰も既定路線であるかのように、まことしやかに極刑回避が濃厚であると囁かれはじめた。

この胸騒ぎはなんなんだろう。賊が侵入した形跡があるのに何も盗られていないような、重大な見落としがあるような気がしてならな

い。あの被告の眼の昏さが私の錯覚を誘っているのかもしれない」

/* unitSecond.acknowledge */

法廷。

弁護士「被告人が二月二六日に関東電力社長であった高垣 聡氏を殺害し三月一日に東京都新宿区で実施されていた歩行者天国に盗難車で突っ込んで井ノ上 颯太くん・清原 剛さん・黒澤 彩さんを殺害、七名の方に重軽傷を負わせたのが事実である点については論を俟ちません。

しかし、動機については、耳を傾ける価値のあるものだったのではないでしょうか？

関東電力は戦後長きに亘り原子力発電は核の平和利用であり安全対策には万全を期しているというキャンペーンを張り国民のコンセンサスを獲得して参りました。しか

しながら、事故が発生した場合の対策はおざなりだったのは周知の通りです。

テロを撲滅することなどできません。それは、病的なデオドランテイズムです。テロは防げませんが、もし発電に原子力を用いていなければ、施設から半径二〇キロメートル圏内が避難区域とされ一一万三千名もの方々が避難を余儀なくされることはありませんでした。

証拠として提示した被告人の投稿したブログのエントリや本公判に於ける被告人の証言が指摘する通り、関東電力は国土と国民を担保に入れることによつて莫大な利益を上げてきたのです。前代未聞のブラック企業とさえ云えるでしょう。

通り魔事件について被告人は正直なところ迷ったと述べました。亡くなられた三名のご冥福、怪我をなさった方々の一日も早いご快復を祈るばかりですが、被告は躊躇いながらも通り魔を実行せざるをえなかったのです。

もしこのまま事故が風化してしまえば、既成事実は温存され、原子力発電の是非が問われなくなり、一旦発生すればリカヴァリーができない被害をもたらす事故のリスクが放置されてしまうという被告人の危機感、被告人のみならず多くの国民の感ずるところです。

私のところには全国から被告人の減刑を嘆願する署名が続々と届いています。署名数は実に一人にのぼります。マスコミによれば、仮設住宅に棲む人々の間には被告人に対して『よくやってくれた』という声もあるそうです。

彼の行動は確かに違法です。

しかしながら、あるいは後生に於いて、彼は維新志士や革命家とみなされるかもしれません。破邪顕正の士とされるかもしれません。例えが適切ではないかもしれませんが、原子力発電は現行法では違法ではありません。ですが、危険極まりないことは

紛れもない事実です。それはちょうど合法ドラッグと同じです。新型ドラッグは覚醒剤取締法や麻薬及び向精神薬取締法の網には引っかけられません。ですが、それが蔓延していいということになりません。

歴史は繰り返すといいますが、そろそろ歴史を教訓とし、パラダイムから自由になってもいい頃ではないでしょうか。國を憂う者を迫害し子孫の結果論の的になる愚を繰り返すのはいかがなものでしょうか。

被告人の蹶起によって四名の犠牲者がたことは誠に遺憾ですが、被告人のような人材を喪うことは我が國にとって大いなる損失です。政治への無関心が叫ばれる昨今にありながら、國を憂う若者の蹶起を極刑によって握り潰すというのは国際社会に於ける我が國の評価を貶めるものでもあると考えます。

よって、弁護人は、被告人の量刑について、極刑だけは回避すべきものと考えます。

もういちど云います。

被告人は、あるいは後世に於いて、身を挺して、時代が隠匿しようとしたものを暴いた英雄と称ばれるかもしれないと

つと、被告が俯き、居合わせた人々の視線を集める。体調に異状でもあったのかとおもきや、被告は嗤っている。

被告人「被告人？」

被告「あんたビョーキじゃねえの？ ヒトの云うこと鵜呑みにし過ぎ」

どよめきが起きる。

被告「マジウケる。釣られすぎだって、どいつもこいつも、『金閣寺』読み過ぎじゃないの？

重大発表がありません。

原発事故を風化させないためにおっさん殺してホコ天に突っ込んで手当たり次第にヒト刺し殺したなんてウ・ソ。

なわけねーだろって。

殺すのに手頃だっただけ」

被告人「手頃？」

被告「殺すのは誰だつてよかったのさ。·だけ
どよ、エキストラみたいなのヤツ血祭り·にあげ
たところで話題にならないじゃん？·で、有
名どころを狙つてみたつてわけ」

弁護人「通り魔は·····？」

被告「おまけだよ、おまけ」

まどかが見回すと、遺族は顔面蒼白になつ
ている。·弁護人も然り。·検事は溜め息をつい
た。·遺族のうち、雅だけが平静を保つている。
被告「意外とヒトつてクルマではねたくらい
じゃ死なないんだね。·ヒト刺すのもそんなに
手応えなかった。·想像してたほどじゃなかつ
た」

弁護人「·····ブログは」

被告「ふ·く·せ·ん·ごくせんじやない
よ？」

弁護人が肩を落としたのが傍目にも判る。
被告「ついでに種明かしすると、ハマーなん
だけど、あれもわざわざハマー選んでパクつ
たの。·ハマーが停まっているガレージ、事前

に調べといたの。

ブログはさ、ひよつとしたらバカが深読
みしちゃうんじゃないかなつてちよつと小
細工はしておいたけれどマジで乗つかつて
くるヤツがいるとはおもわなかつた。·認知
心理学つて正しいんだな。·個人の願望が認
識を歪めるつてね。

みんな浪花節そんなに大好きなんだ？

現実直視しようよ？·義賊なんてお伽噺に
決まつてるじゃん？」

火が点いたように美桜が悲鳴をあげる。
雅や黒澤が宥めようとするが果たせず·外
へ連れてゆく。

被告人は退廷を命じられる。·去り際、弁
護士に対して、

被告「誰が維新志士に革命家だつて？

黙つてりやおれも教科書に載る日·きたの
かな？

もうちよつとだつたんだけどな。·あんま
り滑稽なもんだから、吹いちやつた。

ごめんね、夢見がちでセンチな弁護士のお
じさん」

弁護人は、拳を固めるが被告が扉を潜り拳
のやり場がなくなり項垂れて、取り残される。

/** unitThird.briefing */

独白。

まどか「被告の証言を鵜呑みにして彼を義賊
扱いしていた人々は煮え湯を吞まされること
になった。被告の原発事故についての発言は
所々有効だった。ダンディズムやシャイネス
に根差して嘯いたのではないかと穿った見方
をする向きもあったが、被告の豹変ぶりに対
する轟々たる非難によって掻き消された。

被告の一連の犯行と彼が語っていた動機に
関係がなかったことに安堵した人々も少なく
ないだろう。もし彼の動機がまことしやかに
語られていた動機だったら？ SBOの原
因は不明だ。指導者が急死した近隣国のサボ

タージュという説が有力だ。だが、問題は、
こんな危険極まりない発電方法が認知され
ていたことだ。私個人もふかく考えたこと
がなかった。高垣氏が殺されたことについ
て、国民の殆どが内心支持している。既成
メディアで報じることができないが、ネッ
トでは高垣氏の殺害が肯定されていること
がはつきりしている。そして、何も解決し
ておらず、國は一企業に責任を転嫁し、事
故収拾作業従事者に対して何ら手当をして
いない。いまも放射性物質は垂れ流されて
いる。被告が提示した筋書きは、高垣氏を
斬殺し、返す刀で、すべての日本人にシ
ヴィアな問いを衝きつけた。

一企業をスケープゴートにして、原子力
発電を許容してきた責任を棚上げしようと
している。原子力発電を許容し続けるの
か？ 次に事故が起きたら？ もう私たち
は言い逃れができない。発電に原子力を用
いることのリスクは洗い浚い提示されたの

だから。

もし彼の動機が義憤に駆られたものであれば、私たちは安堵しただろう。解った気になれるからだ。だが、彼はまことしやかに語った動機が嘘だと述べた。

では、何故？」被告にスポット。

/* unitThird.真相 */

法廷。

検事「本件の動機について教えてください」

被告は思案を巡らせる仕草を伴う。その仕

草は可愛らしい。

被告「なんでだろう？」

小頸を傾げて、二の句を継ぐ。

被告「太陽が眩しかったから」

検事が眉を潜め、被告は嗤う。

検事「あなたは四名もの尊い人命を犠牲にしているのですよ？ 動機がないはずがない」

被告「動機がなければ無罪放免になるのか？

動機を究明してどうする？ お前は行動する

ときに一々動機を意識してるのか。ランチのメニューを決めるときに明確な動機なんて存在しているのか。お前は未だに経済人仮説でも信じているのか。司法試験通ってる割にはアタマ悪いんだな」

検事は侮辱に顔面蒼白になりながらも持ち堪える。

検事「いつごろから本件の犯行計画を練っていたのですか？」

被告「年開けてたつけ？ 年末だったつけ？ ま、そのくらいだよ？」

検事「数ヶ月前には間違いないということですね。何故、高垣氏を標的にしたのですか？」

被告「手頃だったというだけだ。原発事故寧ろ大歓迎よ。こんな世界さっさと終わっ

ちまえばいいんだ」

検事「では通り魔は？」

被告「爽快なんじゃないかとおもってよ。

子供の頃、蟻の巣毀して遊ばなかったか？

あれだな」

堪りかねて検事は声を荒らげる。

検事「歩行者天国は蟻の巣じゃない」

被告「蟻の巣は毀しても構わないがホコ天に突っ込んだじゃいけないなんてご都合主義じゃねえか。生物って括りじゃ一緒だろう？」

検事は絶句する。

検事「罪に問われるとはおもわなかったのですか？」

被告「おれに正常な判断力があるのは精神鑑定で裏づけ済みだろう？」

検事「無期懲役または死刑を覚悟していたと？」

被告「よくできました。その通り。でかいヤマ踏めば手っ取り早く死ぬるじゃん」

検事「死にたかったということですか？ では何故他人を巻き込んだのですか。他人を巻き込む必要はなかったのでは？」

被告「ねえよ。幸い死刑っていうカワイイ制度があったら利用しようってことにしただけ

さ」

検事「カワイイ制度？」

被告「マジレスを一笑に付する。」

被告「可哀相だから教えてやるよ。」

おれは死刑に処されるために高垣のおっさんをぶっ殺してホコ天に突っ込んだ」

検事「だから何故他人を巻き込むんだ」

被告「行き掛けの駄賃だな」

まどか「被告人が真相を打ち明けたとき、弁護人の貌に落胆の色を認めた。被告人は拡大自殺を図ったのだ。タナトウスに乗っ取られた個体に法の力は及ばない。

一連の犯行に思想は宿っていなかった。ブログも先日までの証言も被告人の罨

だった。私たちはまんまと引っ掛かってしまった。原子力発電は安全だという今にしておもえば神話的な言説を鵜呑みにしていたように」

暗がりには三名の遺族が三々五々佇んでいる。美桜「実は面白半分で人を殺めたなんて嗤いながら打ち明けるなんて……蟻の巣？ 颯太は蟻じゃない。優しい心を持った無垢な子だった。無抵抗の人々を一方的に襲うなんて……卑怯よ。弱い者を護るのが強い者なんだから、鈴原なんてじぶんよりも弱い者しか叩けない弱者のなかの弱者よ」

雅「鈴原の告白にさほど愕かなかった。私は拡大自殺のセンもあると想定していた。鈴原の告白よりも、あれほど雄弁に愛について演説していた彼一剛の父親が妊娠を打ち明けたら「手術の日程決めた？」と訊いてきたときの方がよっぽど堪えた。あれ以来、私は手放して現実を信じることができなくなった。この世ではどんなことでも起きると五臓六腑でおもいしつた。

剛が亡くなったのは残念だけど、私は剛の

父親の口からあの言葉が放たれて以来、いつだって最悪の事態を想定する癖がついた。一度だけ派手な親子喧嘩をしたことがある。剛が私の醒めたところが嫌いだと云ったのが衝き刺さったのだ。

剛が亡くなったと報せを受けたとき、勿論動揺したが、自失はしなかった。皮肉にも、彼の父親が私に覚えさせたメソッドが役立つ。もし、私がいつだって最悪の事態を頭の片隅に置いておくというメソッドを身につけていなかったら？ きっと私も颯太くんのおかあさんのように取り乱していたに違いない」

黒澤「私は告白せねばならない。彼が思想犯を騙ったとき誰よりも安堵を覚えたことを。そして、彼がやはり愉快犯であると判明したとき誰よりも落胆を覚えたことを。

彼が思想犯であれば私が極刑を望まないという見解を表明しても後ろ指は指されずに済んだだろう。

それにしても、私は驕っていた。家族というものの重みを識っていただけで実感していなかったのだ。魂の奥底から殺意が滾々と湧きあがってくる。娘は私にとってたからものだった」

雅「それなりに真面目にやってきたのに、どうしてこんな目に遭わなきやいけないんだろ。女手ひとつであの子だって育てたんだしね。神なんているわけがない。もしいたら、厭味のひとつも云ってやりたい」

黒澤「鈴原が娘を殺した。私が鈴原を殺したからって娘が生き返るわけではない。判っている。だが、せめて鈴原を娘と同じ目に遭わせたという衝動は峻烈極まりない」

だが、私は運動家だ。決して、死刑を支持してはならない。私が旗手となって少なからぬ人々を導いてきたのだ。それも判っている。一体私はどうすればいいんだ？」

まどかが浮かびあがる。

まどか「被告人が極刑を望んで一連の犯行に

及んだとして、望み通りに極刑にして懲罰になるのだろうか」

検事が浮かびあがる。

検事「被告人が死を恐れているのは明白だ。自殺できなかつたのだから。望み通り死の恐怖を味わわせてやるべきだ」

美桜「そうよ。そうすべきよ」

弁護士「これは罠だ。あいつの挑発に乗って極刑にしたら國は自殺を幫助してやったことになってしまう」

黒澤が唇を噛んで俯く。

まどか「怪物と戦う者はその過程で自らも怪物と化さぬよう心せよ」

弁護士「あいつを望み通りに極刑にしてしまったら法は意味を喪つてしまう」

美桜「法の意味なんてどうだっていい。鈴原には死んでほしい」

まどか「深淵を覗くとき、深淵もまたこちらを覗いているのだ」

検事「死刑が極刑か否かという議論は疑似

問題だ。問題は、法運営が適正に行われなければならぬということだ」

雅「法というシナリオが如何に杜撰で法廷が茶番劇を掛けるためだけの劇場と識らずに生きてこれた方々は幸運だ。私は剛の養育費を確保しようと裁判を起こしたことがある。剛のためだけだ。でも裁判所は和解勧告でお茶を濁した。別に法は弱きを保護するために存在しているのではないと識った。」

まどか「ヒトの価値観を客観的に計測する手立てはないし、その価値観をパラメーターにして被告に課すべき量刑を求める定理は決して發明されないだろう」

雅「誰もが死を恐れているのか？ 統計でもあるのだろうか？ ある精神科医がヒトに生存本能なんて備わっていないのではないかとその著書で述べていた。」

誰も死を恐れているというのは、経済人仮説なのではないか？」

美桜「厭・終生獄に繋がれているとしても颯

太を殺した鈴原が地球上のどこかで生き存えているなんて堪えられない。」

もし鈴原が死刑にならなかつたら？ 絶対に殺してやる。そうしなきゃ天国の颯太に顔向けできないよ」

美桜は躰の異変に吐き気を催して退場。

/* * uniThird. 磔 * /

法廷。

検事「檢察は、関東電力前社長・高垣 聡氏のご長男であります高垣 浩市氏を証人とします」

浩市が証言台に立つ。

検事「お父様が被告人の凶刃に斃られたわけですがご心境をお聴かせ願えますか」

浩市「この世に生を授けてくれた父が寿命を断ち切られたのに憤りを覚えます」

検事「どのようなお父様でしたか」

浩市「厳しい一面もありましたが、子煩悩

な父でした。私も社会にでて初めて会社勤めの大変さを実感したくちですが、父は最終的に関東電力社長の座に登り詰めたくらいですから、私が幼い頃から出世コースでライヴァルも多かったことでしょう。朝は私よりも早く起きていましたし夕食を一緒に摂るなんて滅多にないことでした。休日出勤もざらでしたが、休暇の折には、よく遊んでくれました」

検事「こちらは以上です」

弁護士「お悔やみ申しあげます」

弁護士と浩市は礼を交わす。

弁護士「証人にとってはよきお父様だったようですが、原発事故について何かおっしゃっていますか？」

検事「異議あり。本公判と無関係です」

浩市は検事を制する。毒気を抜かれて検事は大人しく鉾を収める。

浩市「もし父が生きていたら決して公にはできませんでしたが、父は死にもはや関東電力

の長ではありませんので、いいでしょう。

あの事故のあと、父が涙を零すのを見ました。初めて、父の涙を見ました。

事故直後の対応に追われて帰宅もできない状況が一段落して、父の様子を見に実家へ参りました。

事故のことに触れずに、事故前と同じように会食とお酒を愉しみました。その終わりがけに、気が揺るんだんでしょうか、虚空を見遣って涙を流したんです。そして、こう一言絞りだしました。

どうすればいいんだ？ と。

私は何も掛ける言葉が見つかりませんでした。

弁護士「『どうすればいいんだ？』というのはどういう意味だったのでしょうか？」

浩市「私も父の真意を量りかねていたのですが、父の死後、判ったような気がします。

私の生家、父が築いた城は、現在、売りにでています。

父の死後、上條という司法書士が訪ねてきました。父の遺言状を預かっていたと。

遺言状には、高垣 聡の遺産のすべてを原発事故収束基金に寄付すると明記されていました。

居合わせた人々は神妙な面持ちになる。浩市「あの事故のあと、父は関東電力を代表して会見で謝り避難所では公衆の面前で土下座をしました。」

関東電力バッシングが始まって、警察のほうから警備の打診がありました。ですが、父は断りました。実家は、放火未遂や投げつけられた火焰瓶で痛んでいました。電話は鳴り止まないのもジュラージャックからケーブルを引き抜いていましたし、誇張ではなく山ほどの脅迫状が送りつけられていました。街宣車やデモ隊に取り囲まれることもあったそうです。

父はクリスチャンでしたから自殺はしなかったのです。

ですが、自らの身に自殺以外の死がもたらされることが遠くないと判断していたのでしょうか。遺言状を作成したのもそういうことだったのでしょう。

父の在任中に関東電力の保有する原子力発電施設がテロの標的にされて暴走したのは紛れもない事実です。

ですが、父が原子力発電を推進したわけではないということ皆さんに覚えておいていただきたいと思います。

/* * unitThird.interview * /

独白。

まどか「高垣氏の証言は素直に共感できるものだったとはおもう。だが、重箱の隅をつつくのを旨とする夕刊紙などは『父は悪くない』みたいな見出しを掲げた。心無い人々の主張もそういった論調だった。水に落ちたイヌを寄って集って叩いて、恥ずか

しくないのだろうか。

公判は、結審が間近だ。

私は彼を取材することにした」

弁護士事務所あるいは控え室。

弁護士「参ったよ、あいつには、二転三転させやがって。あ、これオフレコね？」

まどかは苦笑しながら頷く。

弁護士「拡大自殺だったんだろうな、やっぱり。あれだけ切れるし端正な貌だちなんだし実家に資産はあるんだから、ちよっと針路が違えばマーケットで成功を収めてさあんたみたいな別嬪さん嫁にでもして他人の羨むような生涯を遅れただろうに」

まどか「被告人が語った偽造シナリオは松浦さんが考えたんですか」

弁護士「偽造のつもりはなかった。高垣氏殺害も通り魔も意味ありげな日付だし、ブログのエントリーも存在した。俺はあいつの謎掛けを解いたつもりだった。

人にユメみちやうんだよな。特に女に対し

でだけど、いつも生身の人間の肉体に地上には存在しえないような魂を吹き込んでのめり込んだじゃ独りでに幻滅しちまう。でも、懲りないんだよな」

まどかが吹きだす。

弁護士「あいつの父親が自殺したのは識ってるよね？ あいつの両親が事件直後に別れたってのも」

まどか「ええ？」

弁護士「あいつの父親が自殺したのはなんでだとおもう？」

まどか「……我が子の罪を代わりにお詫びする……？」

弁護士「だとおもうよな？ どうやら違うらしい。調査の結果、父親が事件の報を聴いたときの第一声は何だったとおもう？」

『私はもうおしまいだ』だとよ？」

まどかの表情が曇る。

弁護士「証言台に立つてもらうために家をでていった嫁さんにコンタクトをとったん

「だけど、『被告人とは血の繋がりもないですし、鈴原家とはもう関係がありませんから』って剣もほろろの対応だった」

まどか「……幸せそうな一家と思ひ込んでいたんですが」

弁護士「誰だってそうおもうよな。きっと、あいつの親父と継母の結婚は愛だの恋だのの介在しない契約に過ぎなかったんだらうな」

間

まどか「実は彼はやっぱり思想犯ということはないんでしょうか？」

弁護士「どうして？」

まどか「検事との遣り取りは筋が通ってました」

弁護士「確かに、云っていることだけを抜粋すれば正しかった。事故を風化させないためという動機が丸きりウソだったわけでもないだらう。だが、拡大自殺であることも間違いない」

それでも、高垣氏が殺されて溜飲を下げた

人々はいるし、あいつの偽証によって脱原発デモに参加した人々もいる。怪我の功名だけどな」

間

まどか「ところで、松浦さんはあのときまで被告を信じていたんですよね？」

彼が松浦さんを裏切ったとき、降りようとは考えなかったんですか？」

弁護士「そりや考えたさ。でもね、降りられない。これは仕事だからだ」

まどかは弁護人の含みを量りかねる。

弁護士「この共同体のために各自ができることをやるのが世を少しでもよくすることなんじゃないのか？俺はどんな凶悪犯だらうが弁護するのが仕事だし高垣さんは電力を供給するのが仕事だった。それにしても高垣さんは気の毒だ。何せ原子力発電はとつくに既成事実化していたんだからな。けど、誰かがスケープゴートにならなければならなかったのも事実だ。高垣氏は

我々の罪を被ったんだ。

誰も神様じゃないんだからな。

あなたもできることをやったらいい。それしかないって。世界を変えるためではなくってあなたが世界に変えられてしまわないようにな」

間。

まどか「どのような判決が下るのでしょうか？」

弁護士「求刑通り、つてところだろうな。あいつは望み通り國によって抹殺される。

けどね、せめてあいつに冥土の土産を持たせてやりたいんです」

まどか「冥土の土産……」

/* unitThird.生みの母 */

法廷。

弁護士「ここで弁護士は新たに証人を申請します」

香月が現れる。

弁護士「お名前を」

香月「水科 香月と申します」

弁護士「被告人とはどういったご関係でしよう？」

香月「母親……実の母です」

他人事のように上の空だった被告が反応する。香月と被告の視線が絡む。被告は感情を隠そうとする余り不自然な能面のような貌になってしまう。

弁護士「では、お願いします」

香月「まず、被害に遭われた方々とそのご家族に対してお詫び申しあげます」

香月は深々と頭を下げる。

香月「剣介が物心つく前に親権争いに負けてそれきりなので、こうして対面するのは初めてです。剣介の父親は国家公務員で私は看護学校に入りたてでしたから、惨敗でした。悔し泣きましたね、あのときは。

お腹を痛めて産んだ子ですし、彼の父は

墮ろせと云ったのを私が産むと頑として譲らなかつたんです。彼の父がこういうことになつてあつさり自殺したそうです。不思議にはおもいませんでした。彼も彼のおかあさんも世間体にとりつかれていましたから。犯罪については、お詫びのしようのないことであり、剣介は煮るなり焼くなりなさつてください。

かねがね成長した姿を一目でいいからみたいとおもつていました。

警官隊の銃撃を受けて一時は危篤だった息子を蘇生させてくださった方々に感謝します。

深々と一礼する。そして、被告に向き直り、香月「剣介、生まれてきてくれてありがとうね」

満面の笑みを浮かべてそう伝えると颯爽と香月は退廷した。

被告人の表情は読み取れない。

/* unifrThird.mothers */

闇に、美桜と雅が浮かびあがる。

雅「もし剛が生きていてもし通り魔に成り下がったとしたら私はどうしたのだろうか？」

美桜「私も同じことを考えていた。あのお母さんの証言は考えようによっては酷いけれど偽らざる本音だろう」

雅「私はあのお母さんのように惜しみなく与えることができるだろうか？」

美桜「狂気に引きずり込まれてしまつてはならない」

雅「あのお母さんも私と同じように孤軍奮闘したのだ。お腹に宿った生命を護るために」

美桜「ふと私は被告もじぶんが産んだような錯覚を覚えた。」

美桜「私たちのような母親を増やすべきだろうか？ あの子は喜ばない。それに：

…」

美桜はお腹に手をあてる。

雅「彼が極刑になるかどうかにはさほど関心はなかった。だけど、もし極刑が回避されたら……？」

思案を巡らせていた雅だったがふと何かに思い至り昏い表情を浮かべる。

/* unitFourth. 結審 */

裁判所喫煙室。

D「数字持ってた公判が終わっちゃうと大変だ。派手だったり捻りのある事件じゃなきゃ視聴者に訴えかけないからな。」

あれ、蓮實ちゃん、露出・露出、露出はどうしたの？

テレビマンならもつと数字に貪欲にならなきゃ。そうでなくなつてネットに圧されてるんだから。数字がとれなきゃ番組打ち切られて俺たちは飛ばされちゃうんだからさ。

社会の木鐸だったって、商売として成り立たなきゃやっていけないってんだから、世知辛いよね。

局アナなんてウチの会社のキャンペンガールみたいなものだから。一般企業に勤めてたら今みたいにならないうちやほやされないんだし蓮實ちゃんだってエントリーシートや面接では尤もらしい動機並べたてたんだろうけど実は大手で待遇いいに違いないってウチ受けたんでしょ？ 狭き門を突破できてラッキーだったじゃん。ちよつとした宝くじ当てたようなもんだよ？」

Dが去り、まどか一人になる。まどか「昨日のことだ。」

禁じられているが、陪審員が陪審員だけで会合を設け、私が喚ばれた。

結審を控えて、彼らはあることを取り決めた。

遺族が全員一致で極刑回避を承諾するのであれば陪審員は全員無期を主張し、さも

なくば全員死刑を主張すると。

そして、私はあることを依頼された。

遺族を集め、ヒアリングを行うことを。

断ることもできた。だが、この事件の

ニュースヴァリユーをおかねに換えてきた報道陣のひとりとして、逃げてはならないような気がしたのだ」

検事「被告人は然したる動機もなく四名の人命を奪い、あまつさえ七名に重軽傷を負わせた。犯行は計画的であり残忍且つ悪質。斟酌すべき情状は微塵もなく、不実な証言によって法廷を翻弄したことから明白であるように更正の可能性は皆無に等しい。

よって、検察は、被告人に死刑を求刑するものである」

まどか「論告・求刑のあと、予定通り、休憩が宣言された。私は急いで被害者遺族の皆さんに声を掛けて集まってもらった」

まどかを囲む美桜・雅・黒澤・浩市。

まどかが集まってもらった趣旨を話し終え

たところ。

長い沈黙のあと、

美桜「私は死刑でなくていいとおもいます。例えば殺人犯とはいえヒトの生命です。その抹殺に同意するのを颯太は喜ばないでしょう。それに……」

美桜がお腹に手をあてる。

美桜「私はこの子の母親でもあるのだから」

間。

雅「極刑でなければならぬとは考えません。

どのみち剛は帰ってきませんから」

間。

黒澤「私は棄権させてください」

まどかは慎重に頷く。

浩市「私も彼を極刑に処すべきとは考えません。父もきつとそれを望んでいないとおもいます」

まどかは一人一人を改めて見回す。

まどか「それでは、皆さんのご意向は極刑回避ということでしょうか？」

遺族は三々五々頷く。

まどか「それでは私が責任を持って陪審員サイドにご報告させていただきます」

参会、まどかが遺族を送りだそうとする。遺族は退室しようとするが雅だけが座ったまま。

雅「待つてください。さっきはああ申しあげましたが撤回します。」

彼が生きていれば、彼のおかあさんは彼と再会できるかもしれません。でも私はもう剛には逢えないんです。決して、せめて、あの方も私と同じ苦しみを味わっていただきたいです。

やっぱり……やっぱり犯人の生命をください……」

泣き崩れる雅に駆け寄るまどか。

/** unIfourth.judgement */

裁判所前。

まどかが駆けてきてマイクを引ったくる仕草をする。

まどか「主文が後回しにされました。関東電力前社長殺害ならびに新宿通り歩行者天国通り魔事件の被告に死刑判決です」

スタジオ「そうかそりや朗報だ。お茶の間のみなさん、あのふざけた犯人に死刑判決だそうですね。面白半分に四人ものヒトを殺したただけではなく助かりたい一心で原発事故を出汁にするような屑はこの社会に必要ありませんよね。」

まどか「ちゃんはずっと取材してくれてたんだよね？」

まどか「そうですね」

スタジオ「大変だったね。死刑というものがなければ事件は起こさなかったなんて屁理屈捏ねる犯人だものね。ご苦労様」

スタジオが引き取ろうとして、

まどか「待ってください」

スタジオ「え？」

まどか「運が悪かったんだとおもいます」

異変に気づいたDがマイクを引ったくろうとするがまどかは抵抗する。

まどか「二〇年以上生きて……被告はじぶんよりも大切なものを見つけられなかったなんて寂しいとおもいました」

スタジオ「もういいよね？」

云わせも果てず、

まどか「待ってください、

公判は幕を閉じましたが、

私たちはもうすこし考えるべきです。

被告の事件が原発事故と無関係だったからといって事故を風化させていいということにはなりません。

致命的な事故の責は、既成事実を野放しにした私たちにもあるはずです。

問題を破壊しても問題を解決したことにはなりません」

スタジオは明らかに動転して、

スタジオ「とりあえずCM行つて」

Dがまどかからマイクを引ったくる。

D「てめえ何考えてんだ？ リポーターなんざ原稿棒読みしてりやいいんだよ。」

ふざけんよ、気取ってんじゃねえよ」

まどかは無言でDとの間合いを詰める。

まどかの膝がDの股間を蹴りあげる。

蹲るDに上司から電話。

平謝りするDを尻目にまどかは確かな足取りでその場を立ち去る。

/* * uniFourth.epilogue * /

海がみえる草原。

雅が佇んでいるところへまどかが現れる。

まどか「すみませんお待たせして」

雅「いいえ、私もいま着いたところです」

まどか「あれからもう三年経つんですね」

雅「永かったです。三年ってこんなに永

「かつたんだっておもいました」

間・

雅「刑が執行されたあとだから、もう二年になるのかな？ 私、教会に通うようになりました。」

あの子がいなくなった世界で生きているのはしんどいですけど、あの子そして鈴原くんの分も私は生きていかなければ、別に黒澤さんの選択をひきあいに出すつもりはないですけど」

まどか「まさか自殺なさるなんて……」

雅「きつと彼は恥を識っていたんでしようね、自らの過去の言動を水に流してはならないと思いつめてしまったのでしようね」

まどか「……」

雅「あなたはどうかさっさといるの？ 生放送中にキレてディレクターを投げ飛ばして局を辞めたなんてまことしやかに囁かれていますけれど？」

まどか「投げ飛ばしてなんかいませんよ。」

「いまはフリーライターです」

間・

雅「あれから……あの子がいなくなっただけで、ずっと私の生涯ってあの子の生涯って何だったんだらうって考えていたんです。」

あの子を産むためにすったもんだしてあの子を産んでからも裁判起こしたりもしたし、あの子は幸せだったのかな？」

まどか「清原さんは？」

雅「そりや幸せでしたよ、鈴原くんのお母さんと一緒に、彼が生まれてきてくれた瞬間くらい嬉しかったことなんてないもの」

まどか「そういえば、あのと生まれた井ノ上さんのところの夏輝ちゃんももう三歳になる頃ですね」

雅「私ももう少し若かったらな。」

近頃、時間の鎖が解けたの」

まどかは小頸を傾げる。

雅「個々の事象は時系列に沿って起きていくけれど、私たちがさ、無条件に未来が

過去に優るものって考えていない？

でも過去は未来によって上書きされませんかよ？ 例え哀しい結末が待っていたとしても愉しかった記憶がなかったことにはなりませんよ？

つまり、時系列という鎖から個々の事象を解き放つてしまえばいいんだって気づいたんです。

剛が亡くなったことは事実ですが、剛が生きていたことが消えてなくなるわけではないし、私と剛が過ごした日々もそう。剛の生涯は鈴原くんによって断ち切られてしまったけれどそれは決して剛が不幸せだったことを意味しないし私の生涯を大きく揺さぶったことは間違いないけれど、私の生涯が不幸せだったことにもならない」

間。

雅「そろそろ教会の時間」

まどか「お逢いできてよかったです」

雅「ごめんください」

雅だけが退場。

まどか「鈴原 剣介の起こした事件とその公判のインパクトは少なからぬものだった。

私はジャーナリストに転身した。近々、鈴原 剣介の事件と被害者とその遺族に取材した著書も上梓する予定だ。

松浦弁護士は、國と関東電力を相手取った裁判の弁護団に加わって故郷を喪った人々・被曝した子供たちのために戦っている。

果たして鈴原自ら翻してしまった数々の主張だが、やはり耳を傾けるべきところはあった。

議論を尽くさないうちに事故を風化させるべきではない。

私はジャーナリストとしてじぶんにできることをやろうとおもう。

幾らテクノロジーや医療が発達しても、地上から悲しみが一掃されることはない。

彼の所業は多くのヒトに作用し、試した。

プロメテウスは神を試して戒められ、彼は私たちを試して戒められた。

彼の所業によつて惹き起こされた悲しみ・苦しみ、そして怒りの感情が渦を巻いて天空を覆い尽くし、塵となつて地上に降り積もつた。

でも、その堆積を衝き破る奇蹟を起こす魂たちがあることも彼の所業によつて指し示された。彼が招いたのは悲劇ばかりではなかった。

地上は戦場だ。犯人はその事実を意識し過ぎたのではないだろうか。

地上の陰翳を払拭することは不可能だ。これからも悲劇は起きるだろう。赤黒い血がアスファルトを染め、雷雨のような泪がそれを洗い流すということが繰り返されるだろう。ただど生きている以上立ち向かうべきだと私はおもう。

イザナキノ命はイザナミノ命を冥界から連れ戻そうとしたが、オルフェがユリデイスを

振り返つてしまったように、約束を破つてしまう。

イザナキノ命とイザナミノ命は喧嘩別れをする。

ヨモツカミ・黄泉の國の神となつたイザナミノ命が宣う。『こんなことをなさるのならば私はあなたの國の人々を一日に一〇〇〇人絞め殺しましょう』。

それに対し、地上を司るイザナキノ命はこう応えた。『あなたがそうするなら私は一日に一五〇〇の産屋を建ててやるだろう』

克典

プロメテウスは電気椅子の夢を見るか？

Does Prometheus dream of electric chair?